

評価公表 第1部

全国知事会政権公約評価研究会 和歌山県知事 木村 良樹

我々のこれまでの三位一体の改革についての提言にもかかわらず、平成16年度政府予算編成では、中央省庁の省益優先による単なる数字のつじつまあわせにすぎない国庫補助負担金の見直しと不十分な税源移譲、さらには一方的な交付税の削減など、国の財政再建を優先させ、地方に「つけ回し」をする、残念な結果になってしまいました。

しかしながら、地方からの波状的な提言活動があればこそ、少なくとも三位一体改革などの地方分権は曲がりなりにも進んできたのではないかと考えます。地方の活動は、たとえば言えば、明治維新の時の天狗党や天誅組の働きのように、時代のさきがけと評価するべきではないかと考えています。

事実、全国知事会をはじめとして地方からの提言を受けて、麻生総務大臣が、三位一体改革について、税源移譲をまずありき、というような試案（「麻生プラン」）を発表したところです。

このような、地方分権の提言やマニフェストの評価ということを突破口にして、道州制や、真の「三位一体の改革」の実現に向かって、ちょっと曙光が見えてきたのではないかと考えております。以上です。